

いでた けいぞう

伊藤 啓之

作曲家・指揮者／平成音楽大学 学長

この度は、コロナ禍の大変な状況の中「RKB こども音楽コンクール」に出場され、各学校の個性豊かな素晴らしい演奏を披露していただきまして、誠にありがとうございました。昨年に引き続き審査させていただきまして、大変意義深い音楽コンクールでした。

これも学童・生徒の皆さんの日々のご努力はもとより、熱心にご指導にあたっておられます優秀な先生方と、それをサポートされる保護者の皆様方のご理解のお陰であると感謝申し上げます。

このコンクールは音源（録音）によります演奏で評価されましたが、ライブ（コンサートホール等）での条件と異なり、収録時の環境・録音方法で、正直なところかなりのギャップがあったように感じました。

また、今回はリード合奏（アコーディオンを中心とした編成）や、パーカッション（打楽器）アンサンブルの新たなジャンルでの参加があり、大変興味深く聴かせていただきました。

- ・歌唱（合唱・重唱）では“声づくり”、・・・・・・発声・音色・ピッチ等。
- ・器楽（管楽・合奏）では“音づくり”、・・・・・・的確な奏法・音色・ピッチ等。
- ・器楽（打楽器アンサンブル）では“構成”、・・・・・・正確なビート感とリズム・表情のつけ方等。

以上のように、基礎的な技術を十分に身につけて楽曲の演奏に取り組むことが大切ですね。

“音楽表現”につきましては、楽曲全体の構成・作品のイメージづくり・フレーズごとの表情のつけ方と歌い方等を大切にされて、さらに工夫しましょう。

「何を伝えたいか！」を明確にされ、どのように演奏すれば聴き手に伝わるか、ということが重要なポイントでしょう。

これからも様々なジャンルの音楽と出会い、“美しく・楽しく・すばらしいサウンド”を皆さんの心を一つにして、創り上げてください。

次回も新たなチャレンジに期待し・・・・・・
素敵な演奏・パフォーマンスをお待ちしております。